



カムリウミスズメ

門川町教育研究所

ふれあい

平成24年8月 NO5
発行 門川町教育研究所
所長 新原とも子
TEL 63-1566
五十鈴小学校内(教育相談室)

教育研究所は、子どもの命を守る「防災教育」の研究と子どもの命を育てる「ふるさと教育」について、門川町役場のそれぞれの担当者と合同の研究会を行いました。今月は、この研究会で話し合われた、防災教育の大切なポイントやふるさと教育で大切にしたい学習などについて紹介をします。



子どもの命を守る 防災教育

命を守る 避難3原則



門川町民の80%が海岸から2km以内の沿岸部に住んでいます。東日本大震災の津波は、5kmの内陸まで到達しています。もし、大津波が発生したら、多くの門川町民が被害を受けることが予想されます。

原則1

想定にとらわれない



高い堤防を乗り越える津波

東日本大震災では、ここは標高10mなので5mの津波なら大丈夫、今までここまで来た津波はなかった・・・など、これまでの津波と同じと想定して、避難しなかった人がたくさんいたそうです。しかし、想定以上の高さ、破壊力をもつ津波のために多くの方が犠牲になりました。想定にとらわれず、まず高い所へにげるのが第一です。

原則2

最善を尽くして避難する



破壊された高さ10mの堤防

釜石市の小中学校では、地震とともに校舎の3階に避難、その後津波の報とともに、すぐに近所の高台に移動、津波の轟音を聞いて、さらに高台に避難して助かりました。1次避難、2次避難、さらに避難、この間10分。助かるために、最善の努力をして避難しました。このような、あきらめない、最善を尽くすことで助かりました。

原則3

率先して避難する



堤防の内側の街は壊滅

東日本大震災では、多くの大人が避難しなかったそうです。まさか・・・と思っていたそうです。その中で、釜石市では、まず、中学生が率先して避難、小学生を導きながら、みんなに先駆けて行動しました。このことが、みんなが避難することにつながりました。率先して避難することが、他の人の命を救うことにつながりました。

家庭での防災教育のポイント

親子と一緒に通学路を歩き、避難場所を決め、約束しておく！



避難場所と海拔表示板

登下校の途中や家の近くで遊んでいる時に地震・津波が発生することがあります。そのために、親子で通学路や家の近くでの避難場所を確認し、避難の約束をしておくことが大切です。参観日の帰りや休みの日などに、一度親子で通学路を歩いてみて、避難場所を確認しておくようにします。そして、「ここに避難していれば、必ず迎えに行く」ことを約束しておきます。このことが、情報が途絶え、混乱する中で、身を守ることに繋がります。

子どもの命を育てる ふるさと教育



大切にしたい、ふるさとの自然や歴史などを紹介します。

親子で民族資料展示室に出かけよう！

(門川の昔の生活がわかります。) 中央公民館

展示室には、明治時代を中心にして、農具や生活用具などがたくさん展示されています。今のような便利な機械や道具が無かった頃に、門川に住む人々はどんな工夫をして生活していたのか。昔の道具や民具をみることで、先人の心や生活の知恵がわかります。

カムリウミスズメの謎を調べよう！

(門川は世界最大の繁殖地です。)

門川の海に「カムリウミスズメ」は、約3千羽生息しています。世界最大の繁殖地です。それだけ、門川の自然が守られ、豊かだと言えます。



門川城を探検しよう！

(門川城は県北をおさめる大切な城でした。)

門川城の周辺には、城山、城屋敷といった地名があり、曲輪(くるわ)や堀、土累(どるい)なども残っています。門川城は、県北を守る重要な城でした。



門川の言い伝えや祭り、行事を調べよう！

(門川の人々の生き方や思いがわかります。)

「中山神社の祭りは、どうして裸で参るのかな？」この、言い伝えを知っていますか？門川には、臼太鼓踊り、門川神楽、尾末だんじり、庵川ばんば、などたくさんの祭りや踊りなどが伝えられています。これらは、門川の先人から伝えられた心のメッセージです。

子どもの教育や子育てで、悩んでいませんか？

困った時には、**教育相談室に気軽に電話をしてください。**

相談電話(門川町教育相談室)

63-1566

~~~~返信欄 (教育研究所便り「ふれあい」へのご意見やご感想をお聞かせください。)~~~~